

帯広の森幼稚園  
園長だより



# 春風化雨

帯広葵学園

令和3年度 令和3年8月15日発行 No.11 園長：佐藤敬示

## さあ 2学期です!!!

明るく、元気な笑顔でスタートです!!!

コロナ禍での夏休みとはいえ、たくさんの思い出ができたでしょう。大きな事故や怪我の連絡もなく、安心していただいています。ご家庭でのご協力・ご配慮に感謝とお礼を申し上げます。



2学期は1年の中でも最も教育日数が多く、活動の幅も広がり、子ども達の心と身体が大きく成長する時期です。

『チーム帯森』は、その成長をしっかり支えていきたいと思っています。



どんな  
2学期に  
なるのかな？



すでに運動会や発表会も計画し、準備を進めているところです。とは言え予測不可能な情勢ですので、臨機応変に対応していきたいと考えているところです。保護者の皆様のご理解・ご支援をよろしくお願いいたします。

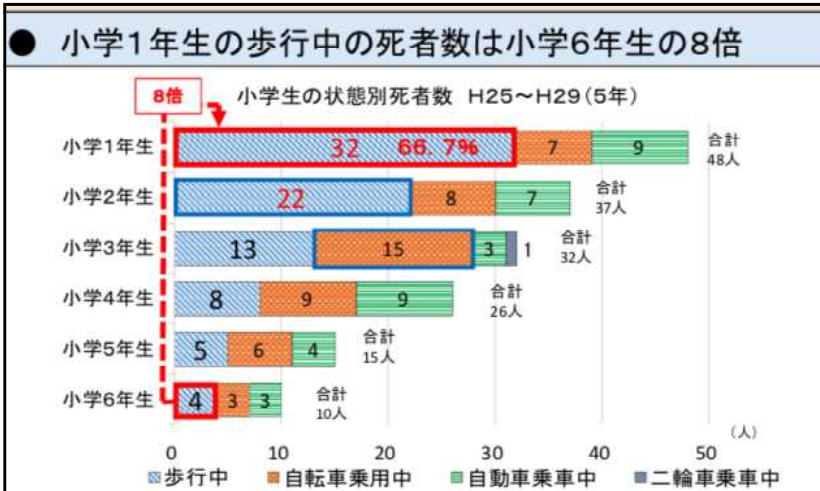


前号で紹介した新しい調理員の苗字の漢字が間違っていました。正しくは伊東寿代さんです。訂正してお詫びいたします。

1学期に引き続き、マスク着用、「うがい・手洗い・検温」等の感染症対策に、ご理解・ご協力の程、よろしくお願いいたします。

# とまる みる たしかめる

先日3日間にわたり、文部科学省主催の『学校安全指導者養成研修』をオンラインで受講したのですが、気になるデータがありましたので紹介します。



まず、左のグラフをご覧ください。小学校1年生が一番多いのは一目瞭然です。残念ながら亡くなってしまった児童数は、6年生の8倍。

怪我をした子のデータはもっと顕著でした。小学校2年生から中学校3年生までの各学年で、交通事故で怪我をした子の平均は、600人～700人なのですが、小学校1年生はなんと1400人!

1年間で1400人の小学1年生が交通事故で亡くなったり怪我をしたりしているのです。

そして、原因で最も多かったのが『飛び出し』です。そもそも『飛び出し』とはどういうことかというと、

「止まらない」「見ない」で道路に入ることです。

では、どんなときに「飛び出して」しまうのかという、以下の4点。



- ①対人: 親が迎えに来た・友だちにつられて
- ②場所: 公園近く・駐車場・横断歩道
- ③時間: 遊びに行く時・遊んで帰る時
- ④心理: 急いでいる時・遊びに夢中



この中の①と②が幼児にとっての鬼門になっています。駐車場では「手をつないで」というお願いの根拠はここにあります。

駐車場は広くて、隣に親がいて・・・子ども達は完全に安心した状態で走り回ってしまう。それでも「安全」だと勘違いしたまま1年生になってしまうのです。

1年生になって1人で登校するようになって、それまでと同じ感覚のまま。つまり、「安全」だと誤解して「飛び出し」してしまうわけです。小学校1年生の交通事故が一番多く、その原因のほとんどが飛び出しというのは、こうした勘違いの上に成り立っているのです。

年長さんの保護者の方に特にお願いです。秋・冬・春先と3回、進学予定の小学校の通学路を一緒に歩いてあげてください。「止まる」「見る」「確かめる」ことを身に付けるには、言葉ではなく、お手本を真似る『モデリング』が最も効果的だそうです。『モデリング』というのは、

- ①大人が模範行動を示し、子どもはその行動を観察する。
- ②大人と子どもが横に並んで一緒に行動を実行する。
- ③子ども一人で実行する。←大人は少し離れて斜め後を歩く。
- ④適切な行動であれば褒め、不適切であれば修正する。



以上の4点です。帯広の場合、季節によって道路状況が大きく異なります。ですから、秋・冬・春先の3回、この「モデリング」を行っていただきたいと思っています。もちろん「駐車場のようないろんな広い場所では走らせない・手をつなぐ」は継続していただきたいと思っています。